

令和5年度

チーム星峯西小学校で取り組む

EdTech・教育の情報化Ⅱ

「確かな学力」を育む

これからの学習指導システムの構築

～アナログとデジタルの学習指導の融合～

研究構想及び実践構想編

令和5年4月〇日(〇)

鹿児島市立星峯西小学校

校長 谷口源太郎

# R5年度研究で想定される研究内容(案)

## 【R4年度研究で積み残された課題】

### ① 低学年におけるタブレット端末の活用法

→R5.2月に低学年にiPadがそろった。全学年の系統的な指導が可能となる。

### ② 特別支援教育におけるタブレット端末の活用法

→知的障害、情緒障害学級等での効果的な活用法は未開拓の分野である。

### ③ 算数科以外での反転授業の実践→⑥ 家庭学習課題の内容

### ④ 総合的な学習でのタブレット端末の活用法

→具体的な実践事例が少ない教科領域である。

→探求的な学習(課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現)

### ⑤ 特別活動でのタブレット端末の活用法

→児童会活動、委員会活動、児童集会、学校行事、クラブ活動等での活用法

→子どもたちが学校生活で日常的に使える機会が少ない。

### ⑥ 家庭への日常的な持ち帰り→③ 家庭学習課題の内容

→家庭学習課題(宿題)の与え方(基礎基本を培う家庭学習ノートとの併用)

→長期休業中は持ち帰っているが、日常的な持ち帰りはまだである。

### ⑦ タイピングの系統的な指導方法

→他教科との関連性を踏まえた系統的な指導計画は作られていない状況  
(指入力、タッチペン入力、フリック入力、キーボード入力(かな、ローマ字))

「確かな学力」を育むこれからの学習指導の構築  
～アナログとデジタルによる学習指導の融合を目指して～

すべての教科領域で情報活用能力を基盤にして育成する

（授業以外）  
補充指導

関連

授業改善

付け

家庭学習

関連付け

関連付け

デジタル学習指導（学習者用デジタル教科書、タブレット端末、デジタルドリル、AI教材、ロイロノート、テレビ会議システム等）

アナログ学習指導（紙の教科書、ドリル、教科用ノート、家庭学習ノート等）

# 学力定着のプロセス(※①②③すべてがそろおう)

つくる

とりだす

①input

③output

新皮質

しまう

旧皮質

②keep

授業改善



問題練習

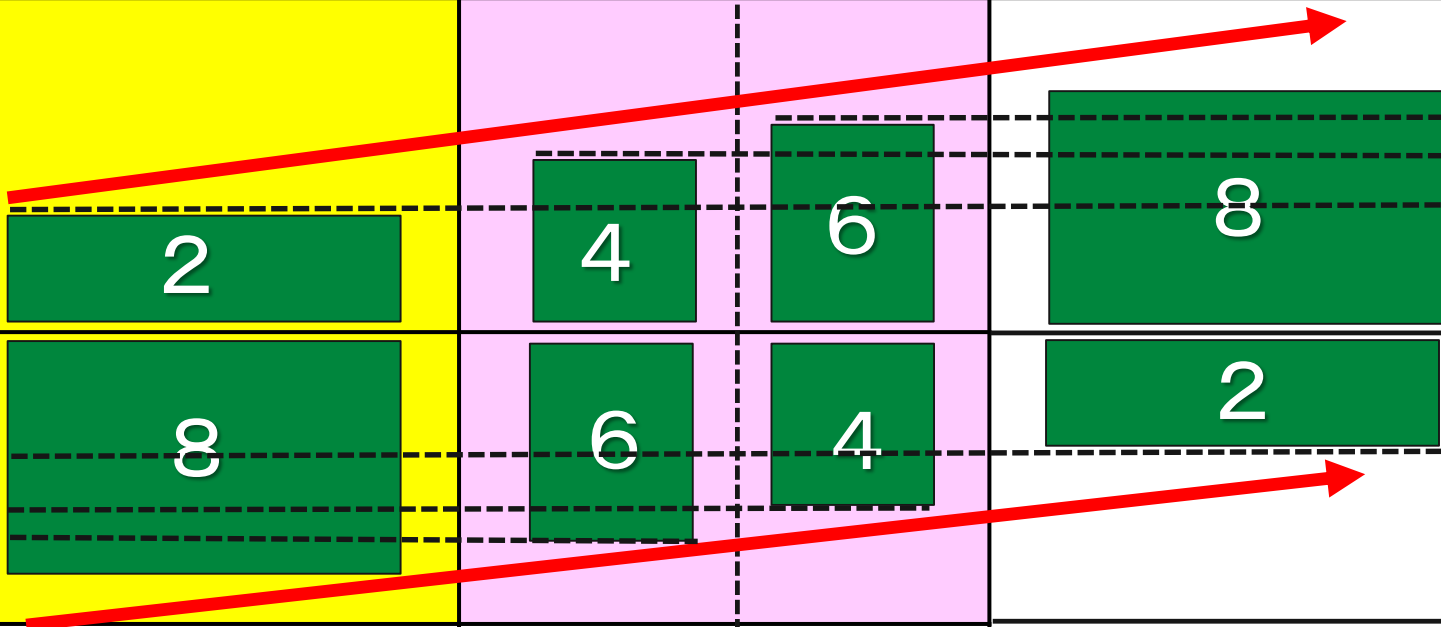


補充・定着指導(量と質)  
+  
家庭学習(量と質)



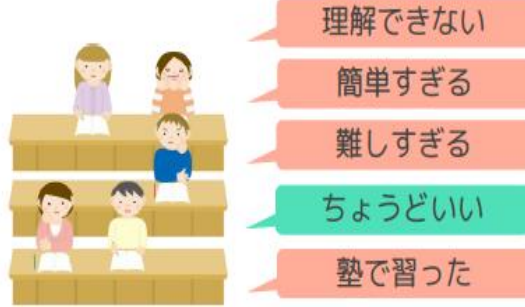
# アナログ学習とデジタル学習の重点の置き方(目安)

アナログとデジタルのバランス(目安)	【低学年】 1年生 2年生	【中学年】 3年生 4年生	【高学年】 5年生 6年生	
デジタル学習指導	2	4	6	8
アナログ学習指導	8	6	4	2
タブレット端末の活用程度 ・ 家庭への持ち帰り	学校で慣れ 親しみ・使う 家庭への持ち帰り不可		学校・家庭で 使いこなす 家庭への持ち帰り可	



# これからの学習指導はこう進化していく

## これまでの学習指導



全員同じ内容・問題数に  
取り組んでいる

児童生徒にとって意味のない  
学習時間となってしまう  
可能性がある

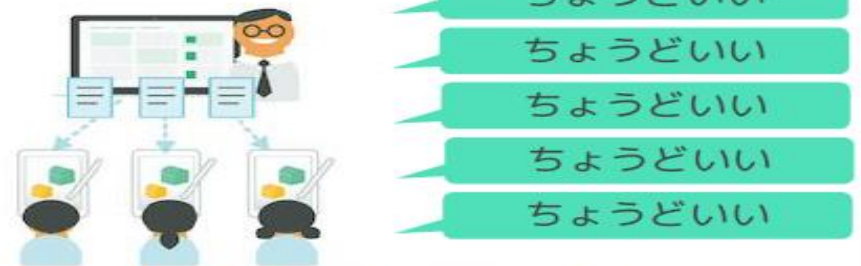
- ①TT指導(量)
- ②少人数指導(量)
- ③授業改善(質)
- ④学力補充指導(量)
- ⑤家庭学習(量・質)等

※個別最適化された学習指導の実現に向けた  
具体策をどう立案し、推進していくか？  
※アナログとデジタルの学習指導の融合を  
どう図っていけばよいか？

※35人学級の段階的導入(量)  
※小高学年教科担任制の導入(質)  
※デジタルドリル・AI教材の活用(量・質)

## これからの学習指導

「アダプティブ・ラーニング」=適応学習



児童生徒それぞれに適切な  
内容・問題数に取り組める

一人ひとりに意味のある  
学習時間が提供できる

# ◆研究

## 【授業改善】の実践イメージ

※主体的・対話的で深い学びを実現する授業

※アナログとデジタルによる学習指導の融合

- ① 各学年(低・中・高)におけるタブレット端末を活用できる学習活動はどのようなものがある？
- ② 課題解決学習の基本的な学習過程に応じたロイロノート、デジタルドリル等の有効な活用法  
【学習過程】つかむ→見通す→調べる・考える→深める→まとめる→つなぐ
- ③ 各教科・領域の学習場面におけるロイロノート、デジタルドリル等の有効な活用法  
【学習場面】一斉学習、個別学習、協働学習



# ◆研究

## 【補充指導】の実践イメージ

①朝学習：ベーシックタイム(15分)におけるデジタルドリルの活用法

②土曜授業：パワーアップタイム(45分)におけるデジタルドリルの活用法

※そもそも補充指導の目的は何か？

「基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育むこと」

=全員に出す「共通課題」と本人の意欲や学習状況に応じて進める「自主課題」から構成される。

※アナログ(プリント等)学習とデジタル(デジタルドリル)学習の比重は？

※学年の発達段階で使い分けた方がベターか？

※定着場面、問題練習場面で使い分け方があるのか？



# ◆研究

## 【家庭学習】の実践イメージ

※新規：日常的な持ち帰りと課題内容

※新規：家庭における協働学習

①**基礎・基本の定着**：家庭学習ノートとタブレット端末（デジタルドリル等）を組み合わせた漢字、計算指導等

②**反転授業**：タブレット端末の持ち帰りによる家庭での予習からの授業（反転授業）算数科以外の教科で実践

※そもそも家庭学習の目的は何か？

「**基礎・基本的な力を定着**させ、**発展的な力を育む**とともに、学習習慣を確立させること」=全員に出す「**共通課題**」の宿題と本人の意欲や学習状況に応じて進める「**自主学習**」から構成される。

終